

～巻頭言～

クリスマスにともされた小さな光

「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった。」ヨハネ 1:5
(聖書協会共同訳)

教会ではアドベントツリーの蠟燭を一本ずつともして、クリスマスを待ち望みます。街もまた、イルミネーションに彩られ、華やかにこの季節を祝います。しかし最初のクリスマス、イエス様は、旅の途上、家畜小屋の飼い葉桶に寝かされた赤ん坊でした。星の光の下、両親の愛に包まれて可愛く聖らかな光がともった、質素な夜を思います。

やがて「ユダヤ人の王として生まれた方」を尋ねる博士たちの言葉に、不安を覚えたヘロデ王に命を狙われ、幼子はエジプトへ逃れます。最後には、宗教の専門家たちや、ローマ帝国に代わる救い主を求めた民の憎しみを受け、十字架で殺されました。人間の罪と悪が勝利したように見えました。しかし三日後、イエス様は復活され、天に昇り、今も生きて働いておられます。闇は光に勝たなかったのです。

先日『ボンハッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師』という映画を観ました。「神以外のものを神としない」と生きた彼は処刑されましたが、その想いは八十年を経てなお問い続けられ、生き続けています。闇は光に勝てないのです。刑の直前、仲間たちとパンを裂き分かち合った彼には、揺るぎない信仰と希望と愛がありました。

私たちも同じ力を、聖餐式を通して神から戴きます。小さくても聖く消えることのない光に与りながら、感謝をもって力強く生きたいと祈ります

牧師 大月 康子

永眠者記念礼拝



秋晴れの11月2日(日)は、年に一度、主にあって先に召された聖徒の方々を偲ぶ礼拝です。有志の方々によって教会駐車場がきれいになり、三々五々、ご遺族が礼拝堂に集まれ、挨拶を交わされていました。大月康子師により、ヨハネ福音書10章7～10節から「キリストの憐みにすがって」と題してメッセージが語られました。礼拝後にはご遺族お一人ずつご挨拶をいただき、故人のエピソードや近況を伺うことができ、感謝でした。墓前礼拝では、第一墓地・大月牧師、第二墓地・永松前牧師が司式をしてくださいました。(裏面に続く)

永眠者記念礼拝 ご遺族の皆さま

礼拝後にご遺族お一人ずつご挨拶をいただき、故人のエピソードやご遺族の近況を伺いました。



子ども祝福式

11月23日(日)は収穫感謝礼拝として、神様から戴いている物を祭壇に捧げて感謝して持ち帰りました。また、子ども祝福式も23日・30日に行なわれ、大月牧師よりひとりひとりに祝福のお祈りを頂き、プレゼント(手袋)が贈られました。

子どもたち…23日 E.Sさん、J.S.くん、S.M.くん、R.M.くん。

30日…S.M.くん。

『若き日に創り主を覚えよ、と言われていますが、どなたにとっても今日が一番』若い日です。主と共に歩む人生へと招かれています』～30日週報より。

「我らの国籍は天にあり」

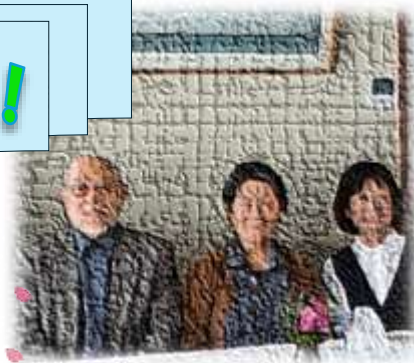
(墓碑銘)



教会第二墓地・永松師



Yさんお元気で!



11月16日礼拝後、岡山教会の仲間として16年間共に過ごしてこられたY・B姉が帰国されることになり、教会の送別会兼女性会主催の懇親お食事会として24名で開催しました。

大月康子牧師より開会の祈りをいただき、教会からのプレゼント(会堂内の写真入り写真立て)、女性会から暖かいベストと手提げ袋のプレゼント、T.N.姉の送る言葉、月報委員会から16年間の「Yさん思い出写真集」が贈られました。皆でお赤飯弁当を頂き、Yさんのご挨拶と独唱をしみじみお聞きしました。最後に永松前牧師より感謝と祝福のお祈りをいただきました。

サプライズで、東京のD夫妻よりスマホでメッセージが伝えられ、H.S.君(4年生)、Mさん(2年生)のピアノ演奏も贈られ、Yさんの笑顔がはじけていました。Y姉のこれからの生活とご家族の健康が守られますようにお祈りしましょう。

各写真はE姉、S姉、編集部によります。

